

中学校数学科における「学力向上に係る効果的事例」について

【幸手市教育委員会】

1 「基礎・基本の定着」を図る取組

- (1) 確認小テストの実施 …特に「数と式」の授業を中心に、原則的に全授業時間、前時に学習した内容の確認テストを実施した。学習内容の系統を定着させるためにも有効、且つその小テストをファイリングさせることで、計算の法則を整理させるためにも役に立った。
- (2) 単元確認テストの実施 …全部の単元最後の授業において、(1)の小テストと同時に「単元確認テスト」を行った。7割を合格の目安として、不合格者には再テストを行ったり、「リカバリープリント」の宿題を課した
- (3) 計算コンテスト …全学年で学年の取組として実施。他教科と順番に、基礎力向上を目的に年間約3回行うことで定着を目指した。合格点を設定し、不合格者には再テストを実施している。
- (4) 全校学習コンテスト …「冬休み」の課題確認テストとして、また「教育に関する3つの達成目標」のプレテストとしても実施している。
- (5) マルチテスト …特に「図形」の時期に、図形領域に限らず、年間の学習のまとめとして実施。毎時間記入する「チェック表」の裏表紙に、学習する内容項目(年間約30項目)を一覧化。生徒達は決められた時間に、自分の学習した項目の小テストに5分間で取り組む。合格点がとれれば合格。とれなければ不合格で、次回、またチャレンジする。決められた小テストでなく、自分の合格を目指す項目を選んで小テストを受けるのが意欲につながった。

2 「言語活動の充実」を図る取組

- (1) チェック表の活用…授業が終わると、毎時間、生徒は自分のチェック表に、「本日の学習」のポイントを書き、授業評価（A B C D）と発言回数、宿題などを書き込む「評価表」活用の取組。生徒は自分の言葉で授業をまとめ、わからなかった所などを自由に記入し教室に提出する。教師は質問の答えなど書いて次の時間生徒に渡すため、手間はかかるが生徒との交換、交流ができる他、上記1の(5)のような継続的、形成的な評価テストにも生かせる。
- (2) 板書とノート指導の取組 …本校の研修課題と関連し、すべての授業で「本時の目標」と「本時のまとめ」を板書として明示化する。また、ノート指導についても学期始めのガイダンスで「ノートの書き方」の指導を強化し、「自分だけのノート」「きれいなだけじゃない、使えるノート」作成を目指す。特に「自分の言葉でまとめる」ノートを目指す。段階的に指導を続けている。

3 「思考力・判断力・表現力」の育成を図る取組

- (1) 問題の作成 …自分で問題を作成する取組。方程式を作る。方程式を使った文章題を作る。図形の角度を求める問題を作る。関数に関する問題を作る。標本調査に関する問題を作るなど。
- (2) 「少人数指導(習熟度別)」課題コースにおける、課題解決学習など。